



# 国際化の最前線から

## グラデーションの中の地域社会：国際協力と多文化共生の交差点 ～島根県邑南町のケース～



市民国際プラザ コーディネーター 泉水 福生

### 大都市から各地域まで

#### ―「草の根の実践知」に光を当て、発信する使命

日本最大級のネットワーク NGO<sup>\*1</sup> である特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC) は、NGO や政府、自治体、企業などをつなぐハブとして、政策提言や組織強化に取り組んでいます。また、クレアと協働運営する「市民国際プラザ」を通じて、自治体や NGO/NPO が担う地域の国際化をサポートしてきました。その一環として、自治体と NGO/NPO の連携による好事例を掘り起こし、現場の知恵を広く発信することも私たちの重要な使命です。大都市から各地域まで足を運ぶ中、大都市のダイナミズムに触れる一方、小規模だからこそ、地域資源を最大限に生かした創意工夫溢れる

取り組みが数多く生まれていることも実感しています。その象徴的な事例の一つが、島根県邑南町（おおなちょう）の取り組みです。



高齢者自助グループの集まりにて、邑南町高齢者福祉担当の職員が邑南町の取り組みを紹介

### 町役場・NPO・

#### 現場の三位一体が起こした化学反応

2020 年、クレアの助成事業「ミャンマーにおける高齢者保健福祉人材の育成協力」の調査で邑南町を訪ねただけでなく、町自身の活力を呼び起こす「双方向の交流や学び」となっていました。介護予防などの指導は現地で高く評価されましたが、それ以上に印象的だったのは、活動を通じて町職員や住民の視野が広がり、地元の価値を再認識する機会となっていたことです。背景には、町役場、（一社）コミュニティパートナーズ、介護施設の緊密な連携があります。さらに、35 年に及ぶアジアとの交流史、公民館活動が息づく住民自治の土壌が、良質な地域発の国際協力を形作っていました。



公民館でのひな祭りイベントでミャンマーの織物も展示

### 「支援」から「共生」へ：

#### 溶け合う境界が生み出す地域の活力

かつて、「国際交流・協力」や「観光」の文脈で育まれてきた外国人との接点は、近年、さらなる広がりを見せています。農業や製造業での受け入れが進むとともに、かつての支援の縁から、多くのミャンマー人が介護人材として邑南町で働くようになってきました。国際交流・協力として深化してきた種が、今や地域課題を解決する多文化共生の実を結んでいます。共生を支える新たな基盤として、公民館を地域日本語教育の拠点や交流の場といった「生活インフラ」として活用する試みも始まっています。長年の国際活動で培った経験を土台に、こうした身近な拠点が外国人住民を受け入れる新たな機能として定着していくことが期待されており、地元の子供たちもその日常的な交流の中で自然とグローバルな視野を育てています。

国際協力と多文化共生が溶け合い、相互作用する邑南町の歩みは、日本社会が目指すべき一つの指針ではないでしょうか。私たちはこれからも、現場に宿る「生きた知恵」に光を当て、広く届けていきたいと考えています。



公民館で参加可能な行事について教えていただく

<sup>\*1</sup> NGO とは：貧困・飢餓や紛争、環境破壊や災害など世界で起こっているさまざまな課題に、政府や国際機関とは異なる「民間」の立場から、利益を目的とせず取り組む市民団体が、NGO(Non-Governmental Organization) です。

ネットワーク NGO とは：特定の社会課題の解決や地域支援に向けて、複数の NGO・NPO が加盟・連携し、個々の団体だけでは解決できない課題に対して『集合的な力』でアプローチするために設立された、中間支援型かつ社会変革を牽引する運動体としての非営利組織です。

### プロフィール

泉水 福生（せんすい ふさ）  
特定非営利活動法人国際協力 NGO センター シニアコーディネーター  
クレアとの協働事業「市民国際プラザ」を担当